

園名 宇陀市立榛原北保育園

はばたくなら②③

友達や異年齢児と関わりながら
主体的に活動する子どもを目指して

3・4・5歳児 6月～10月

取組について

○今年度も新型コロナウイルス感染予防の影響により、人との関わりに対して制約が多い中ではあるが、異年齢児との自然な関わりの中での育ちを大切にしたいと考えた。また、本園の子どもの実態として、自分の思いを上手く表現することが苦手な子どもが増えていることから、コミュニケーション力を身につけることで、「人との関わり」を深めたり、「協調性」を養ったりすることにつながると考えた。そこで、日々の園生活や遊びを通して、友達や異年齢児と関わる姿が見られる中、年齢の枠を超えて過ごすことで友達の幅も広がってきている。遊びの中で試行錯誤したり、互いの刺激を受け取ったりすることで、さらに子どもたちの成長や学びにつながるのではと職員間で話し合った。様々な活動に主体的に関わっていけるようするには、どのような環境構成や援助が必要かを探り研究に取り組んだ。

○普段の遊びや行事後の5歳児の活動に対する憧れから、異年齢児の「やってみたい」という気持ちを大切に、興味・関心の幅が広がるような場の確保を行い、互いに考え合い、学び合う場となるよう心掛け異年齢児交流の中で主体的に取り組む子どもの姿を目指している。

① 健康な心と体	② 自立心	③ 協同性	④ 道徳性・規範意識の芽生え	⑤ 社会生活との関わり
⑥ 思考力の芽生え	⑦ 自然とかかわり・生命尊重	⑧ 数量や図形・標識や文字への関心・感覚	⑨ 言葉による伝え合い	⑩ 豊かな感性と表現

実践事例 事例1 「5歳児との関わりから」 4歳児 6月～7月

10の姿に関する育ち

子どもの姿

人との関わり

保育者の援助・環境

主体的に活動した姿

〈子どもの姿〉5歳児の遊んでいる姿に興味をもち、石鹸を削って泡クリーム作りを楽しむようになった。色水遊びの経験から、自分で水の量を調整し泡作りをする。5歳児のしている姿を真似て、泡立て器で混ぜるが、シャバシャバの泡クリームになり、5歳児の作るような泡クリームができない。友達や5歳児との関わりの中で互いに刺激し合うことで、試行錯誤しながら遊びを進めていけるよう、環境の工夫や援助を行った。

〈ねらい〉繰り返し挑戦しながら泡クリーム作りを楽しむ。
・5歳児との関わりを楽しむ。



①「フワフワのクリームを作りたい。」と、意欲的に繰り返し遊ぶ。

削った石鹸に水を入れて混ぜると泡になることを楽しむ。だんだんと泡になってくる様子に面白さを感じ繰り返し楽しむが、水をたくさん入れてしまい泡クリームができない。

道具や用具の使い方がわからず困っている。

②自分なりに水の量を工夫して泡クリーム作りをする。

5歳児の遊びを真似たいと見様見真似で泡クリームを作る。

5歳児の泡作りをしている姿に目を向けられるようにする。また、「なんでだろうね。」「どうしたらいいと思う?」と、子どもたちに問いかけてみる。

5歳児の泡クリームを見る。「すごい、ふわふわ。」「本物みたい! どう作ったの?」

「これ、どうやって作るの?」「これで石鹸を削って雪の結晶みたいに作るねん。」

「5歳児さんに作り方知っているから聞いてみたらどうか?」



③スプーン1杯の水を入れる。



「水は少しなんだね。」と子どもたちの気付きに共感する。

「スプーン1杯だけ水を入れるねん。」

④用具を貸し借りし合って使う。

スプーンを使って水を入れるようになる。シャバシャバだったクリームがトロトロになってくる。

遊びの後の話し合いでも取り上げる。

教えて欲しいことを5歳児に伝え仕方を知る。

⑤5歳児のアドバイスを聞いたり尋ねたりして遊びを進める。

5歳児が4歳児の作っている様子に気付き、「トロトロになってきたな。」「そう少し石鹸削ってみたいらしいと思う。」「水は入れないほうがいい?」側で声をかけて、教えてあげる。

⑥5歳児のアドバイスを聞いたり伝えたりしながら遊びを進める。

遊んだ後の話し合いで自分の思いや困っていることを伝え、皆で考えを出し合う。

教えてもらったことや気付いたことを他児にも知らせたり、試したりできるようにする。

「本物みたいなクリームができたね!」「教えてもらってうれしいね。」と、子どもと共感する。

友達と一緒に目的をもって取り組む。

⑦5歳児や友達と一緒に工夫したり、教え合ったりして遊ぶ。



石鹸を増やしたり、水の加減をしたりすることに面白さを感じ根気よく取り組んでいる。

⑧5歳児に教えてもらったことを基に水の量や石鹸の量をさらに調整して試行錯誤する。

石鹸を足して、混ぜるとふわふわのクリームになってくる。「できてきた!」「水はちょっとで石鹸をいっぱいやな。」と、4歳児の子どもたちも手順を確認しながら泡クリームを作る。

イメージしていることの実現に向けて取り組んでいる。



⑨園庭の花や葉を使ってケーキを作る。

繰り返しクリームを作ったり、色をつけたりして楽しむ。

⑩イメージする固さのクリームにしようと繰り返しクリーム作りを楽しむ。できたクリームでケーキ作りをする。

・5歳児と同じ場で遊ぶことで、5歳児のしている姿を見たり、教えてもらったりして興味や関心の幅が広がった。さらに教えてもらったことで諦めずやってみようとする意欲につながり、できた喜びや満足感を味わうことができた。
・遊びの中で友達同士や、5歳児と言葉を交わし、思いや考えを伝え合って遊ぶ姿が見られた。
・子どもによっては、泡クリームを作ることよりも、混ぜる事に楽しさを感じている姿もあった。成長や発達の側面から興味や関心に差があるため、一人一人の遊びの中で学びを読み取り、声掛けや援助をしていくことも大切であると感じた。

事例2 「リレー遊びを通しての関わり」 5歳児 9月～10月

主体的に活動した姿

〈子どもの姿〉

・運動参観の経験から、自分たちで準備したりチームを決めたりしながらリレー遊びが始まる。赤・青・黄の3チームで行おうとするが、人数が合わなかったりすぐに走り終えてしまったりして、思うように進まない。話し合いを重ねながら、チーム数を減らしたり、両チームの数を教え人数を合わせようとしたりしながら、遊びを進めようとする姿ができた。

10の姿に関する育ち

子どもの姿

保育者の援助・環境

人との関わり

〈ねらい〉友達と思いや考えを出し合ったり力を合わせたりして遊ぶ楽しさを味わう。

・3歳児や4歳児に教えたり一緒に遊んだりして、思いやりの気持ちや自信をもつ。

友達と誘い合いながら、リレーを楽しむ。両チームの人数を教え、数が揃わない時は2回走る子どもをチーム内で決めて遊びを行う。

走ることは得意ではないが、リレーには興味をもって見ている子ども。

白線引きや三角コーン、旗や笛など取り出しやすい場所に用意しておく。

④⑩遊びが成り立つためのルールに気付き、守って遊ぶ。また、人数や順番に興味をもつ。

運動参観の経験を遊びに取り入れる。

自分たちで準備をしたり、進行役をしたりすることを楽しむ。

遊びに何が必要なのか考えて用具の準備や役割分担をしている。

4歳児が興味をもちリレーと一緒に行動が、自分たちのことで必死な姿が見られる。

①経験したことを思い出ししながら、自分たちで意欲的に遊びの環境を作ろうとする。

4歳児の不安な表情に気付けるように、「わかりやすくルールを伝えてあげる事も大切だね。」と言葉をかけ、関わりながら遊びを進めていけるよう様子を見守っている。

4歳児に優しく関わり、ルールのある遊びを知らせている。



自分達でチーム分けや順番を決めている。

4歳児に走る順番を知らせたり、バトンをもらう場所や走った後の移動場所を知らせたりしようとする。

④⑤⑥⑨⑩自分たちと、4歳児との違いに気付き、どのように4歳児に伝えたら相手が理解し、リレーと一緒に楽しめるようになるか考え、伝えようとする。



友達と一緒に考えた仕方です。

4歳児が仲間に入ることで勝敗に差が出る事が気になり、友達と解決策を考え、周囲の友達にも共感してもらえようように伝える。



子どもたちのやってみようとする姿を受け入れ、試してみるよう促す。

5歳児が4歳児にルールを教えながらリレーを行う。「お兄ちゃんたち優しかった。」「楽しい。」と、4歳児の声に笑顔になる。

②⑤4歳児から憧れの目で見られることにより自尊心が育っている。

4歳児と合同で遊ぶ中で、勝敗に差がつき始める。

どうすればチーム同士が接戦になるのか、走る速さや走る距離に気付けるよう声をかける。

5歳児はトラックの大きさを変えてみたり、4歳児をトラックの途中まで迎えに行ったりする。

⑧⑨⑩トラックの長短や自分たちが走る距離の長さに気付き、みんなに分かるように提案したり、試してみようとする。

3歳児も遊びに加わる。手を繋いでトラックを走ったり、走る速度を遅くしたりし、年少児もリレーを楽しめるよう関わっている。

⑤⑨⑩4歳児に対して関わっていた経験から、3歳児に対しての関わり方を考え、言葉や身振りで知らせようとする。

②⑤3歳児に対して優しく接する友達の姿に気付き、同じように関わろうとしたり、友達に認められ自信に感じたりしている。

思いを伝え合い、一緒に考えた事を、3歳児や4歳児にも分かりやすく伝える。みんなで実現していく。



・運動参観で子どもたちがリレーの楽しさを十分に経験したことにより、子どもたちは意欲的に遊びに取り組み、自分たちの考えを出し合ったり試してみたりしながら、主体的に遊びを進めていこうとする姿につながった。

・3歳児・4歳児との関わりにより、自分の知っていることを分かりやすく相手に伝えようとして、みんなで楽しめるよう考えたりする姿が見られた。また、思いやりの気持ちが育ち、3歳児・4歳児に憧れの目で見られることで5歳児としての自信をもち、自尊感情を育むことにつながった。

(まとめ)

・保育者の援助、環境だけでなく、子ども同士の関わりやつながりを大切にすることで自分なりの表現で伝え合い、刺激し合ったことで「やってみよう」「一緒にしよう」「どうすればいいのかな?」「こうしてみる?」等、遊びを通して考えたり、試したりして主体的に活動して遊びを進めていく姿へとつながった。

・異年齢児保育になると、普段の保育では起こらないような出来事や予想もしないことが起こる。しかし、その時に子どもたちが相互に考え合い、互いに学び合い育ち合う「人と関わる力」が育まれる。その中で主体的に活動する姿につながった。

(成果)

・「保育わくワークシート」の活用を元に、子どもの姿や子ども同士の関わり、保育者の援助や環境が可視化され、子ども理解や日々の保育を振り返り、次の日へつなげる課題が見え、子どもの姿から、この時期に何を体験し育てていくのかを明確にしていく事や援助を考える事ができた。

・子どもの興味関心に合わせた環境構成を行うことで、子どもが主体的に遊ぶようになり、さらに異年齢同士の関わりを通して、思いを伝えたり聞いたたりして、じっくりと遊び込む経験ができた。異年齢児からの刺激を受け、新しい気付きがあり、気付いたことを活かしながら遊ぶことで、自信や思考力が芽生え、主体的に遊ぶ姿につながり「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」に結びつけて保育を展開することができた。

(課題)

・今後も子どもの内面理解を深めたり、保育者の環境や援助を見直したりしながら、子どもの学びや成長、主体的な姿につなげていきたい。そのためには、日々の保育の振り返りを行い、今後も職員間で話し合いながら保育者の学びを深めていきたい。

・コロナ禍という中であるが「子ども同士のつながり」や「人との関わり」の中で学びの要素が多くある。今後も、たくさんの人との関わりを通して、コミュニケーション力を身に付け、自尊感情を育て自信をもって取り組める子どもの姿を目指して保育をしていきたい。